

# 東京 肝臓のひろば

令和6年(2024年)8月号 第261号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201  
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564  
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会  
<http://www.tokankai.com>



隅田川両国水上バス発着所 ～東京都・墨田区～ 切り絵・佐藤廣士さん

ラジオNIKKEI

大人のラヂオ

2024年2月9日放送

# C型肝炎の治療とSVR後の 発がん、災害医療センターについて

ゲスト

独立行政法人 国立病院機構 災害医療センター 光学診療部長  
消化器内科部長 板倉 潤先生

進行

東京肝臓友の会 米澤敦子



米澤敦子 (以下米澤)

今日は独立行政  
法人国立病院機構

災害医療センター光学診療部長、  
消化器内科部長の板倉潤先生をお  
迎えて、「C型肝炎の治療とSV  
R後の発がん、災害医療センター  
について」と題してお送りいたし  
ます。

先生とお会いするのは久しぶり  
ですね。



板倉潤 (以下板倉)

僕が災害医療セ

ンターに移ったのが3年前になり  
ますが、学会でお会いしましたよね。

米澤 板倉先生は私たち東京肝臓  
友の会でとてもお世話になってい  
る先生です。

最初に板倉先生のプロフィール  
をご紹介します。1969年愛知  
県生まれ、東京都のご出身です。

東京医科歯科大学医学部を卒業  
後、武蔵野赤十字病院などを経て、

現在独立行政法人国立病院機構・

災害医療センター光学診療部長、  
消化器内科部長に就任されておら  
れます。趣味は音楽を聴くこと。

座右の銘は「禍福は糾(あざな)  
える縄のごとし」です。先生は音  
楽がすごく好きだそうですね。

板倉 ひたすら音楽を聴くのが好  
きですね。子どもの頃はギターを  
弾いてたこともありましたが、い  
までも一応ギターのコードは押さ  
えられます。

米澤 今もギターはお持ちなんで  
すか？

板倉 ギターもキーボードもあり  
ます(笑)。

米澤 でも、あまり弾く時間もな  
いでしょうからもないですね。

板倉 子どもが弾いてくれないか  
な、と期待はしているのですが。

米澤 お子さんたちと一緒に楽器を演奏することはないですか。

板倉 男の子2人なので、親父と一緒にやることはたぶんなさそうですね(笑)。

米澤 聞くところによると、先生はさまざまなジャンルの音楽をものごく聴いていらっしやるそうですが。

板倉 はい、ジャンル問わず聴いてます(笑)。あまり聴いてないのは、民族音楽くらいだと思います。でもフランスのディープ・フォレストという、半分民族音楽に足を突っ込んでいる音楽ユニットは好きで聴いていたので、民族音楽もあんまり忌避感はないですね。

米澤 音楽はCDを購入したりとか？

板倉 いまはネットから多くて、

ユーチューブで聴いて、気になった楽曲をストリーミングで聴いてますね。

米澤 昔はラジオでしたか。

板倉 ラジオが多かったですね。

米澤 東京肝臓友の会が先生にすぐお世話になっていたのは、先生が武蔵野赤十字病院時代のことでしたね。東京都には肝疾患診療

連携拠点病院が2つあって、1つは虎の門病院で、もう1つが武蔵野赤十字病院。先生が肝疾患相談センターの副センター長を務められていたときに、東京肝臓友の会は多摩地域に、いまは2つになってしまったのですが、当時は5、6くらいの患者会があって、その代表の人たちと一緒に肝疾患相談センターが立ち上がるときに先生とお話しをしたことがあります。

それが先生とお会いした最初だっと思うのですが、こんなにお若い

先生がいらっしやるんだと思っていいたら、あとで年齢を伺ってびっくりしました(笑)。

板倉 若づくりしてるわけではないんですが(笑)。

米澤 でもその頃と全然お変わりないから、いまでも学生に間違えられるような感じですよ(笑)。

板倉 年齢詐欺とはよく言われます(笑)。

米澤 当時、「こんなに若いインターンみたいな先生がいるんだ！」という感じで驚きました。私が言うのもなんですが、すぐがんばっておられて、先生は私たちにとって希望の星だったんです。だから武蔵野赤十字病院を去られると聞いて、本当に残念に思いました。

それからもう3年経つんですね。さて、それでは先生がお医者さんを目指した経緯を伺いたいと思

います。小さいときからお医者さんになりたかったんですか。

板倉 そうだったと親は言うのですが、僕がいつ医者になろうと思っただのか、自分でははっきりと覚えてないんですね。

愛知にいた10歳頃までは身体が弱くて、近くのかかりつけの医者によく通っていたんです。行くとびにあめ玉をもらって喜んでいたので、その先生に影響を受けましたね。小学1年生のときに川崎病になったんです。その当時、川崎病は本当に珍しい病気だったんですよ。しかも小学1年生で川崎病になるというケースはそれほど多くはなかったんです。いまでも赤ちゃんがかかるような病気なので。その後日赤病院に入院したことがあるのですが、そのとき担当してくれた先生がとてもやさしくて、たぶんその2人の先生に影響されて医者を目指したんじゃないかと

親は言うのですが、自分ではもう



覚えてないですね。ただ小学6年生の卒業文集で、将来なりたい職業のところに「医師」と書いてました。自分で自覚はないけれど、小さい頃から医者になりたいと思っていたんでしょうね。

米澤 どうして医者になりたいかという動機は覚えてないんですか。

板倉 本当に覚えてないんです。親が言うには、もっと小さい頃は「動物のお医者さんになりたい」と言っていたらしいので、獣医さんになりたかったようです。でも、どこかから人間の医者というイメージに変わったんでしょうね。

本格的に医者になろうと決心したのは、実は大学を浪人したときなんです(笑)。浪人中、親にも確認されたし、自分でも「本当に医者になるのか？」と自問自答したときに、「ああ、やっぱり医者になろう」と思った、最終的にはそれがきっかけになりますね。

米澤 この番組には肝臓の専門先生の先生がたくさん出演されているのですが、小さい頃から医者になりたいと思って医者になった先生というの、それほどいらっしやらない……いえ、ほとんどいらっしやいませんね(笑)。

板倉 みなさん、優秀な方ばかりだから(笑)。将来の行き先を考えるときに、「医者がいんじゃないか」という方が多くて、実際そういう先生たちの多くは、みなさん大成されているので。

米澤 でも患者としてはですね、小さい頃から志を持ってお医者さんになられたほうが……。

板倉 いや、僕は志というほどの志じゃないですよ(笑)。

米澤 いえ、これは医師に対する勝手なイメージだとは思いますが、「どうしても医者になる！」

という強い志を持って、みなさんお医者さんになるものだと思っていたのですが、この番組を始めて沢山の医師に動機を伺っていて「志を持って医者になった人は意外と少ないんだな」ということがわかりました(笑)。

板倉 どうなんでしょう(笑)。なかには「医者が天職」だという方も多くいらっしやいますからね。

米澤 「医者になってから本当の意味で医者になるんだ。それは患者さんに育てられるからだ」とおっしゃる先生はすごく多いですね。

私は実際に板倉先生の診察を受けたことはないのですが、患者さんからの評判がとても良かったんです。ひとりひとりの患者さんに対してすごく真摯に接していらっしやるんですよ。だから先生を追って武蔵野赤十字病院から災害医療センターに移ったという患者もいらっしやいます。

板倉 たしかにいまの病院に移ってから、前の病院から移られたという患者さんは何人かいらっしやいますね。

米澤 趣味についてですが、音楽以外の趣味はありますか？

板倉 本をひたすら読んでいます。

米澤 お忙しいのに本を読む時間はありますか？

板倉 時間はつくるものです。仕事じゃないところで時間つくってどうするんだという話もありますけど(笑)。

米澤 私も本を読むのはすごく好きですが、いまは目も悪くなってしまうので、以前に比べて読まなくなっていました。

板倉 仕事で難しい論文を読むことが多く、それで満足することも

PBC AIH PSC 通信

## PBC・AIH・PSC 対面交流会のお知らせ

久しぶりの対面での交流会です！  
楽しくいろいろお話ししましょう♪



**日時** 2024年 **10月5日(土)** 14時～16時

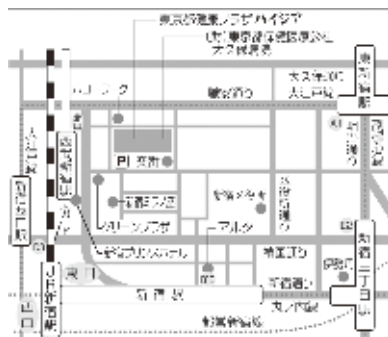
**対象** PBC (原発性胆汁性胆管炎)、AIH (自己免疫性肝炎)、  
PSC (原発性硬化性胆管炎) の患者・家族の方

**会場** 東京都健康プラザ ハイジア 4階研修室  
(東京都新宿区歌舞伎町2-44-1)

**申込メ切** 10月2日(水)

JR新宿駅  
徒歩7分

**申込方法** 電話またはメール どちらかにて、  
①お名前 ②電話番号  
③10/5交流会参加希望  
と明示の上、お申し込みください。



☆電話 **03-5982-2150** (電話受付：祝日を除く火・木・金、10時～16時)

☆メール **seiky@tokankai.com**

### ★PSC交流会 (Zoom) を開催しました

7月21日(日)に、PSCのオンライン交流会を開催しました。参加は8組でした。背中など体の痛みについて、検査数値について、PSCの新しい治療薬は開発されているのかなど、経験談や情報の交換をしました。今回も潰瘍性大腸炎を合併した参加者が多く、話題のなかで潰瘍性大腸炎には治療薬の選択肢がたくさんあることが改めて認識され、PSCにも良い治療が早く出てきますように…と、皆で思いを強くしました。

(PBC・AIH・PSC部会 古川)



みや かわ かのえこ  
(公財)宮川庚子記念研究財団 主催

参加無料  
定員10名  
(要予約)

肝疾患患者さんとご家族のための

# 小規模な相談会を含めた講演会

2024年 10月20日(日) 13:00~15:00

## MAFLDとアルコール性肝障害

—ウイルス性肝炎の患者さんが注意すべきこと—

講師：四柳 宏 先生(東京大学医学研究所 先端医療研究センター感染症分野 教授)

みや かわ かのえこ  
会場：公益財団法人 宮川庚子記念研究財団

〒107-0062 東京都港区南青山 2-19-8 Tel 03-5414-8581

申込方法：財団ホームページ(<https://mmrf.jp>)で10月初旬案内

# 同病者による面談相談

☆肝臓病のこと、生活のこと、なんでも お気軽にご相談ください☆

日時：9月30日(月) 10月30日(水)

13時30分~16時30分(1人1時間)

場所：東京都障害者福祉会館1階 相談室

対象：東京都在住、在勤の方優先

主催：東京都

相談料：無料(予約制)

相談員：米澤敦子(東京肝臓友の会 事務局長)

### 申込方法

※電話でお申し込みください。

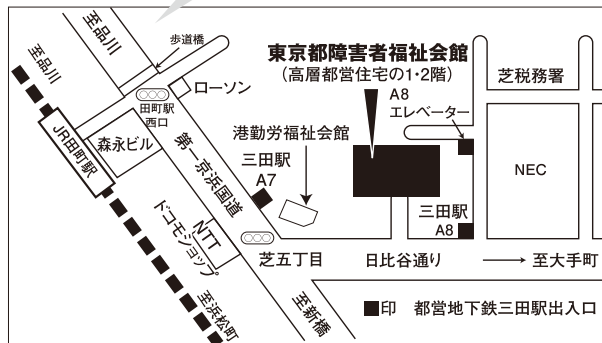
【申込先】都障害者福祉会館相談係

〒108-0014 港区芝5-18-2

☎ 03 (3455) 6321

### 【交通案内】

- ◆JR「田町駅」西口徒歩5分
- ◆都営三田線「三田駅」出口A8 徒歩1分
- ◆都営浅草線「三田駅」出口A7 徒歩1分



本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。